

令和5年度

# 道徳教育委員会

## 研究テーマ

道徳性の芽を生かし、よりよく生きるための自覚を深める道徳授業の在り方  
～子どもたちが自分の考えを伝え合い、聴き合おうとするための手立てとは～

世話係	伊藤 茂(清水小学校)
委員長	上里 笑美(源池小学校)
委員	富永 浩一(梓川中学校)
	佐々木 清一郎(明善中学校)
	笠原 愛(鎌田小学校)
	戸沢 幸子(信明中学校)

## 目 次

1 個人研究のまとめ .....	道一2～16
------------------	--------

- 1 題材名 「カメは自分を知っていた」
- 2 資料名 中学道徳1 きみがいりばんひかるとき
- 3 道徳授業の実際、振り返り

(1) 主眼 (ねらい)

「カメは自分を知っていた」という耕司の言葉から、美麻はどんなことを考えたのかを考えることを通して、自分の良さをより伸ばすために大切なのはどのようなことなのかを、友達の良さや自分のよさについて多角的に考え自分の将来のあり方について考え、個性をのびしながら生活していこうとする態度を育てる。

(2) 授業の振り返り

【導入】「自分は、どんなことでほめられたことがありますか」

- ・友達に、困った時に助けたことから優しいといわれた。
- ・ノートを丁寧にとっているといわれた。

【内容把握】「美麻は、どうして里子に勝つことができなかったのだろう。」

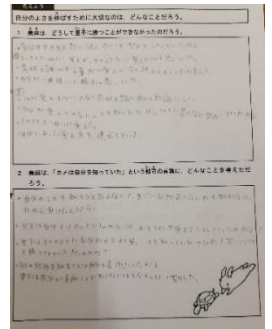
- ・頑張りを過信して、自分より苦勞している里子を見下したから。
- ・里子は、自分のことをただ覚えることはできないと知っていたから、意味を調べたりしてこつこつ覚えていき、自分に合った覚え方をしたから。
- ・美麻はこれだけ覚えていれば大丈夫と思い、油断していたかもしれない。
- ・美麻は今の自分に満足していたから。
- ・美麻は、自分は暗記が得意と知っているから覚えることしかしていなかったけれど、里子はなかなか覚えれないと知っているからノートに書くなどの努力をした。

【中心発問】「美麻は、『カメは自分を知っていた』という耕司の言葉に、どんなことを考えただろう。」

- ・里子は簡単に覚えられないことを知っていたからこそ努力を続けられたんだろう。
- ・カメは人より遅いことを知っていたから人よりも努力しないといけないことをわかっていたように、里子は一つ一つ意味を調べてノートをつくったりして努力したところが亀と似ていて、里子は自分を知っていたんだと考えた。
- ・里子は美麻よりもできないことがわかっていたから誰よりも努力をしたんだ。
- ・里子は遅いなりに努力をしていたんだ。
- ・自分の短所を知ることは自分の長所につながる、里子は自分が美麻ほどできないと分かっていた努力した。

4 授業を終えて

自分を知ることが大切ということ、人のことも知ることが大切ということ、おごりは失敗につながるということ、地道な努力が大切と感じた生徒が多くいました。



1 題材名「わたしの再出発」

2 資料名 中学道徳3 きみがいちばんひかるとき 光村図書

3 振り返り

(1) 主眼(ねらい)

80歳以上になっても学び続けようと決意する見目さんの作文を通して、目標をもって学び、困難も乗り越えて、自分を高める喜びを実感して生きていこうとする実践意欲と態度を学ぶ。

(2) 振り返り

〈導入〉学ぶことを楽しいと感じたことがありますか。

ある⇒それはどんなとき? どうして楽しいと感じた? なし⇒いつもどのような気持ちで学んでいる?

○最初は個で考え、グループになって語り合った。理解が深まっていくときや知らなかったことを知ったときに楽しいと感じる生徒がいた。嫌なもの、しなくてはいけないものというイメージをもつ生徒もいた。

〈内容把握〉見目さんの作文から印象に残ったところはどこですか。

- ・小学校を終えると、進学はさせてもらえなかった。
- ・わからないまま、できないままで終わらせたくない。
- ・今まで知らなかったことが学べるのは、本当にうれしいこと。
- ・決心して行動を起こして、本当によかった。

印象に残ったことから自分はどのように感じましたか。

- ・今、自分たちは恵まれている
- ・80歳になっても挑戦する見目さんがすごい。

〈中心発問〉見目さんは、なぜ学び続けたのでしょうか。

○グループで話し合わせ、発表し、全体で共有した。

○「自身の成長の喜び」「世界の広がりの実感」「前向きで積極的な気力」の大きく3つのまとまりに分けられた。

〈まとめ〉これからあなたは、どのように学んでいきますか。

○現在の自分の姿を振り返り、これからどのように生きていきたいかを考えさせたかった。

- ・失敗しても乗り越えていきたい
- ・挑戦していきたい
- ・最後まであきらめず頑張っていきたい

4 授業を終えて

導入の「学ぶことを楽しいと感じたことがありますか」という問いかけから、自分自身の現状を振りかえり、自分事としてこれからの生き方について考えられるようにしたかった。進路選択が迫ってきている子どもたちに考えさせたい題材であり、グループで語り合い、さまざまな意見にふれ、考えを深めさせたかった。

【本校の道徳部会 研究テーマの位置付けについて】

**【特別の教科「道徳」での子どもの様子】**

- 学校生活や日常生活について、素直に自分の気持ちや考えを語ることができる
- 自分の考えや経験したことをもとにその時の気持ちや相手の気持ちを考えることができる
- 自分ごととして捉えて考えることができる
- 自分の考えはあるが、友だちからどう見られているか気にしてしまう
- 友だちの思いを聞いたり、比べて聞いたりすることが苦手である
- 教材の価値理解はできるが、実践意欲と態度までにはつながらない子もいる

**【特別の教科「道徳」での教師の指導】**

- 生活の中にある道徳的心情をゆさぶられる場面を想定して発問を行ってきた
- 多面的・多角的な考えに触れられるように、友と語り合う場面を設定した
- 自分自身をみつめる（ふりかえり）場面を十分に確立できていない
- 子どもが自分の中にある考えを深めるための対話的活動の機会を十分に確保できていない

**【特別の教科「道徳」の授業を通して願う子どもの姿】**

- ・友と協働的に学ぶことを通して、自己を見つめながら、道徳的価値の理解を深める子ども
- ・子どもたちが、自分を見つめたり友だちと協働したりして、感得した道徳的価値をもとに、よりよく生きて  
いこうとする心情を高める子ども
- ・道徳的価値の理解をもとに、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることを通して、道徳性を育み、実践しようとする子ども

**特別の教科「道徳」 研究テーマ**

**自分自身をみつめる道徳学習の在り方**

～対話的活動、ICTなどの手立てを通して、子どもたちが自ら学ぶ授業作り～

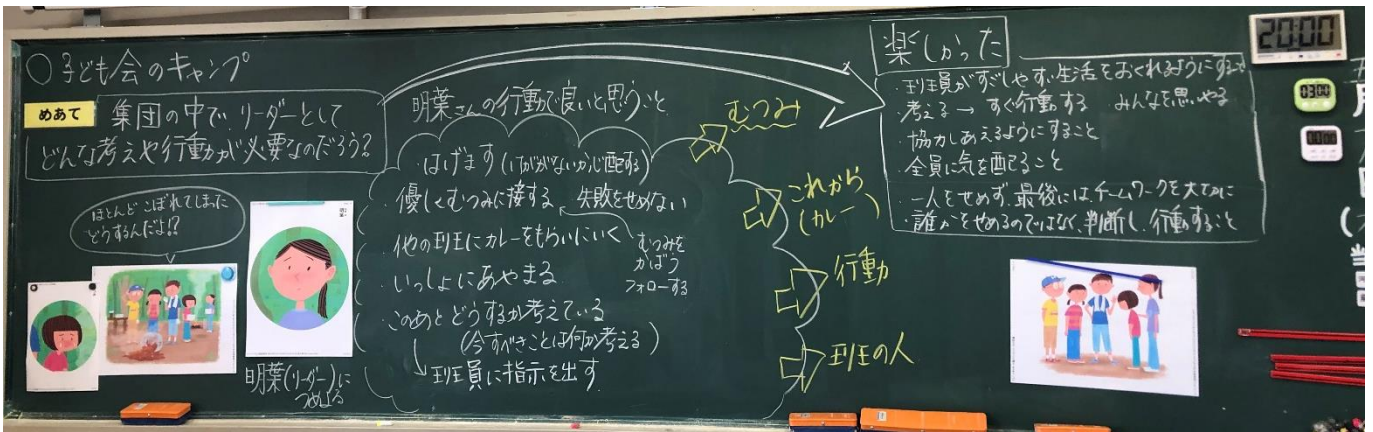
そこで研究テーマをもとに、具体的に以下の2点を考えて取り組んでいる

- ①子どもが会える道徳的価値についての授業づくり【中心発問や補助発問など】
- ②自分自身を見つめるため学びにつなげるための手立ての工夫  
(対話的な活動の導入・ICTの利用など)

【実践事例】:ICT活用における、多面的・多角的な考え持つことができそうな場面

6年 主題名 自分の役割を果たす【C(16) よりよい学校生活、集団生活の充実】

教材名 子ども会のキャンプ



### 3班・4班

最高学年として、大変だと思う事は？

委員会の仕事 杏子	児童会の旗 進行計画の進	当番活動 き	部活の時 い	わくしど かいの通 直...	宿題が多い りき
掃除で1年生 迎えるし おり	1年生とそ うの 果城	1年生の面 朝を見る	全校で動く とき	地区児童会 の二 便、	いろいろな 掃除りき
掃除の時 らき	地区児童会 のことで は	掃除を1年生 に教える時 い	ちくち のよ らき	高学年た らといわ れて嫌 なめ る子	宿題が 多い 哲

### 3班・4班

自分だったら、この後どうする？

みんなに 謝る らき	大丈夫？と ご迷惑を かけ る	次どうする か考え る	こぼしたの はしょう がない から	むつみさん を 怒 め る	むつみさん に 謝 る	人数は誰にでも あるから みんな で く ら い を ま ん だ る	むつみさんが 悪い んじゃない よ
大丈夫？と い う し お り	大丈夫だよ とい う し お り	けがして ないか を こ ろ ま す	もう一回作 れれば大丈 夫だよ と い う し お り	近くの大人 に 声 を 掛 け る	みんなだ ま ら な さ ら き	さし か ら も う 一 回 作 れ ば い い な ら う	また新しい ものを作 ら な い
もう一回作 ろうとい う し お り	声をかけて 安心させ る	むつみさん を 怒 め る	もう一回み んなで作 る よ う に し お り	「もう一回作 れればい いよ」 と い う し お り	大丈夫？と 聞 く し お り	「むつみさん が悪い んじゃない よ」と い う し お り	かたず け る こ い ろ の こ と

### 3班・4班

明葉の行動でいいなと思うことは？

むつみさんに謝 る よ う に い う し お り	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る
失敗した子 を 支 え る し お り	書めなくて みんなに い っ た こ と を し る	むつみさん に や さ し く い っ た こ と を し る	みんなだ ま ら な さ ら き	むつみさん を 怒 め る	むつみさん を 怒 め る
むつみさん に 謝 る よ う に い う し お り	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る	むつみさん と 一 緒 に い っ た こ と を し る

今日、道徳の時間にジャムボードを使  
て学習しました。それを使ったら、い  
つも発言をほとんどしなれども、たく  
さん書けました。みんなの意見が分  
かると「同じ考えだなあ」と思  
て安んじます。みんなの意見がよ  
く見えるのでいいなあと思  
いました。だからこれから使  
ってほしいです。でも、ジャム  
ボードは記入するだけだから、自  
分でも発言してみたいです。その  
おかげ!! 大団圓!!

～～子どもが会う道徳的価値についての授業づくりの考察～～

ふりかえりの時間を設定することで、より深く考え、自分の変容をとらえることができた。さらに、「今まで6年生は、こうあるべき」という自分の中にあった意識や行動もった児童が、別の考えや行動があると知り、他にも6年生としてできる意識や行動があると気がつき、生活の中でも意識や行動をして過ごそうとする記述があった。このことから、ふりかえりの時間を確保し、自分自身をみつめる場面を設定することは、児童の道徳的価値の理解を深め、実践意欲・態度まで高めることができると考える。

～～自分自身を見つめるため学びにつなげるための手立てについて～～

事前にアンケートを取り、協働追求の場面でそのアンケートの結果を示すことで、友だちの新たな考えに触れる場面になると考えられる。また、ICT 機器を利用することにより、導入段階における時間短縮や終末時において導入段階で感じた考えを見返すことが容易にできると考える。このことから、ICT利用の仕方やアンケートの集計方法、それらを活用しながらの子ども同士のかかわりができる場の設定をしていくことが必要だを実感した。

## I レポートの概要

### 1 自己課題〔研修テーマ〕

- 生徒の言葉で考える道徳の授業構想
- 道徳の評価につながる学習カードのあり方

### 2 事例の概要

指導書の指導案は端的に学習活動がまとめられており、授業を進めていくにあたりとても便利であるが、いざ、授業をしてみると意見が広がりにくい発問だったり、生徒の思考の流れをとめてしまう学習活動が入ったりすることもある。そこで、原点に立ち返り、発問に対する生徒の言葉や思考の流れを考えながら授業構想を行って実践につなげた事例。

あわせて、道徳の評価(通知票や要録の記述)につながる学習カードについても考えた。

## II 授業実践

### 1 実践授業

(1) 主 題 向上心、個性の伸長 A3

(2) 資料名 『カメは自分を知っていた』

出典 中学道徳1「きみがいちばんひかるとき」

補助教材：絵本「イソップ寓話うさぎとかめ」絵 ポールガルドン 文 さがの弥生

### (3) 本時のねらい

イソップ寓話「ウサギとカメ」から、競走しようというウサギの提案を受けたカメの気持ちを考え、百人一首大会のライバル関係にある生徒たちの物語を読んで、暗記が得意な美麻に勝った里子の気持ちを考えることを通して、自己を知り、何事にもあきらめずに向上心をもって挑戦しようとする実践意欲をもつことができる。

(4) 生徒の言葉で考えた授業展開案

	学習活動（時間）	主な発問と予想される生徒の反応	教師の出
導入	1 イソップ寓話「うさぎとかめ」の読み聞かせを聞いて、ウサギの提案をうけたカメの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ だいたい知ってる。</li> <li>○ 細かいお話はわからないなあ。</li>   <li>○ 才能があっても途中で手を抜いてはダメだ。</li> <li>○ 相手を下に見て調子に乗っていると失敗する。</li> <li>○ カメのように努力を続けると勝つ。</li>   <li>○ 調子に乗っているウサギに腹が立った。ウサギをやっつけたい。</li> <li>○ ウサギに勝てる自信がある。</li>   <li>○ 負けてもいいからチャレンジしてみよう。</li> <li>○ 自分ができることを精いっぱいやっで戦おう。</li> <li>・自分の経験を想起するだろう。</li> </ul> <p>〈板書〉 「向上心」「自分を伸ばす」とはどのようなこと？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みなさんは「ウサギとカメ」のお話を知っていますか。</li> <li>・スクリーンに教材コンテンツの「イソップ寓話うさぎとかめ」を提示し、読み聞かせを行う。</li> <li>○ どんな感想をもった？</li>   <li>・生徒の感想に共感しながら聞く。</li> <li>● では、そもそも、カメはどんな気持ちでウサギの提案を受けたのでしょうか？</li> <li>・学習カードの1に考えを書かせる。</li>   <li>○ 相手はウサギだよ。勝てる？</li>   <li>○ みなさんはカメのような気持ちになったことはありますか。今日は「カメは自分を知っていた」というお話から、「向上心」「自分を伸ばす」とはどういうことか考えましょう。</li> </ul>
展開	2 資料「カメは自分を知っていた」(P142～)の範読を聴いて、印象に残ったところに線を引く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の範読を聞く。</li>   <li>○「すごいね。私には、その方法はできないな。」里子は自分に合うやり方を知っていたんだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を範読する。</li> <li>・心に残ったことに線を引かせながら資料の範読を聴かせる。</li> <li>○ 線を引いたところとそこに線を引いた理由を発表させる。</li> <li>・共感しながら聞き、里子が美麻に勝った理由を板書にまとめる。</li> </ul>
	学習活動（時間）	主な発問と予想される生徒の反応	教師の出



展 開	3 美麻に勝つことができた里子の気持ちについてグループで考える。	<p>○「自分だけのノートをつくって百人一首を書き写していたの、知ってた？」 里子の努力がすごいと思う。</p> <p>○「カメは自分を知っていた、僕はそう思うんだ」という耕司の言葉。 自分を知っていたから美麻に勝てたんだと思う。</p>	<p>●では、里子に勝つことができた美麻 はどんな気持ちで百人一首大会の準備をしていたんだろうね。</p>
	<p>【中心発問】 里子はどんな気持ちで百人一首大会の準備をしていたのだろうか。</p>		<p>・4人一組のグループワーク ・ホワイトボード用意 ・役割…司会、記録、発表、1番に意見出す人 ・記録 出された意見をまとめるのではなく全部書き出す。 ・発表 出された意見から3つ選んで発表させる。</p> <p>【グループワークの評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に意見を出している。</li> <li>・友だちの意見を共感的に聞いている。</li> <li>・友達の意見を聞きながら考えを構築している。</li> <li>・出された意見を聞き比べながら考えている。</li> </ul>
終 末	<p>5 授業をふり返り「向上心」とはどのようなことか「自分を伸ばす」ためにはどんな気持ちが必要かについて考える。</p> <p>6 教師の経験談を聞き、本時で学習した道徳的価値について自分事として考える。</p>	<p>○勝ちたいという気持ちだけでなく、 どうやったらうまくいくかをしっかり考えようとする気持ちが大切。</p> <p>○自分のよさや得意なこと、苦手なことを知って、自分を高めるためにいか そうとする気持ちをもつこと。</p> <p>○勝ち負けよりも楽しもうとする気持ちが必要。</p> <p>○強い相手に対しても立ち向かっていこう、挑戦しようという気持ち。</p> <p>○部活で相手が上級生とかだとすぐに駄目だと思ってしまうけど、勝つためにどうすればいいか考えて挑戦していく気持ちが大事だと思った。</p> <p>○うまくいっている友達のまねをしようとして失敗したことがあるので、自分のやり方を考えたい。</p> <p>○里子のように勉強も部活も楽しみながらやって、自分が向上</p>	<p>どういうことか」「自分を伸ばすためにはどんな気持ちが必要か」について考えてみましょう。</p> <p>○教師の説諭 物語のようにすぐにうまくいくことはないが、続ければだんだんうまくいくようになったという経験談を話す。</p> <p>○今日の学習を通して、感じたことや考えたことをまとめましょう。</p> <p>【評価】「向上心」「自分を伸ばす」という価値を自分に引き寄せて考えることができたか。</p>

		するとうれしい気持ちになり、もっとやりたいと思えるようになっていった。	
--	--	-------------------------------------	--

(5) 本時の授業で準備したことと板書計画

① スライド「教材コンテンツ」⇒「1学年」⇒「うさぎとかめ」にスライド資料を準備。

② 読み聞かせ 絵本を原稿に起こしておく。

③ 板書掲示 A「ウサギの提案をカメが受ける場面」の絵、B「里子」のイラスト

④ グループワーク ホワイトボード(6)、ホワイトボードマーカー(黒赤6)、レイサー(6)

※ホワイトボードは黒板に掲示できるようにマグネットをつけておく

く

★ホワイトボードでなくても、「紙台紙 (A3の紙) と付箋」またはタブレットの

「ジャムボード」を使っても活動できると思います。

## 2 授業の実際



絵本『うさぎとかめ』の読み聞かせの場面

### ◆ イソップ寓話「うさぎとかめ」の読み聞かせの場面

・絵本の画像を取り込んで教室のプロジェクターで示すため

にスライドを準備したが、教材コンテンツでは容量が大きすぎてスライドが動かなかったため、そのままの絵本を読み聞かせた。

⇒教材コンテンツに入れず、パソコンから直接プロジェクターに送ればよかった。

#### 《 実際の授業で生徒から出た言葉 》

- ウサギに負けてもいいから勝負したい。
- ウサギは手加減するんじゃないか。
- あきらめずに一歩ずついこう。
- 自分の弱さをつかってうさぎに勝とう。

◆ウサギの提案をうけたカメの気持ちを考える場面

《 授業構想の中で考えた生徒の言葉 》

- 調子に乗っているウサギに腹が立った。  
ウサギをやっつけたい。
- ウサギに勝てる自信がある。
- 負けてもいいからチャレンジしてみよう。
- 自分ができることを精いっぱいやって戦おう。



印象に残ったところに線を引くながら資料「カメは自分を知っていた」の範読を聴く場面

◆資料「カメは自分を知っていた」(P142～)の範読を聴いて、印象に残ったところに線を引く場面

《 授業構想の中で考えた生徒の言葉 》

- 「すごいね。私には、その方法はできないな。」里子は自分に合うやり方を知っていたんだと思う。
- 「自分だけのノートをつくって百人一首を書き写していたの、知ってた？」里子の努力がすごいと思う。
- 「カメは自分を知っていた、僕はそう思うんだ」という耕司の言葉。自分を知っていたから美麻に勝てたと思う。

《 実際の授業で生徒から出た言葉 》

- 「カメは自分を知っていた」絵本のカメのイメージが少し変わった。
- 「自分だけのノートをつくって～」里子は隠れて努力していたんだなあ。
- 「こんなの簡単だよ」という美麻の言葉。後悔してる。里子を軽く見たことに対し

て。

◆【中心発問】「里子はどんな気持ちで百人一首大会の準備をしていたのだろうか。」を考える場面。

《 授業構想の中で考えた生徒の言葉 》

- 美麻に絶対勝ってやるって気持ちはあったと思う。
- 自分らしく戦いたいなあ。
- 美麻の真似をするのではなく、自分のやり方で準備しよう。
- どうやったら美麻に追いつけるだろうか。
- 負けてもいい。でも、少しでも美麻に追いつきたい。
- 美麻に勝つことよりも、百人一首のことをもっと知りたい。
- 覚えるのは苦手だから、書いて覚えよう。覚えやすいように印象に残ることをまとめよう。
- 百人一首をもっと楽しみたい。



《 実際の授業で生徒から出た言葉 》

- 美麻みたいになれるよう頑張りたい。
- 美麻のような努力家になりたい。
- いまごろ美麻はどんな練習をしているんだろう。
- 自分なりにがんばって百人一首を全部覚えよう。
- こんなに努力したから美麻にも勝てる。
- 今度こそ美麻に勝ってクラス代表になりたい。
- 私はたいして強くないけどあれだけがんばってノートを写したんだから1位を取りたい。美麻に勝ちたい。
- これだけ勉強しないと美麻には勝てない。
- 時間をかけて準備する。
- 楽しみながら代表に選ばれたい。
- みんなにちやほやされたい。
- 楽しみながら代表に選ばれたい。
- 百人一首の意味がわかるとたのしいな。もっと知りたい。
- 努力が報われるといいな。
- 美麻には勝てないかもしれないけどいけるところまでいこう。

- ◆「向上心とはどういうことか。自分を伸ばすためにはどんな気持ちが必要か。」を考える場面。

《 実際の生徒の学習カードの記述より》

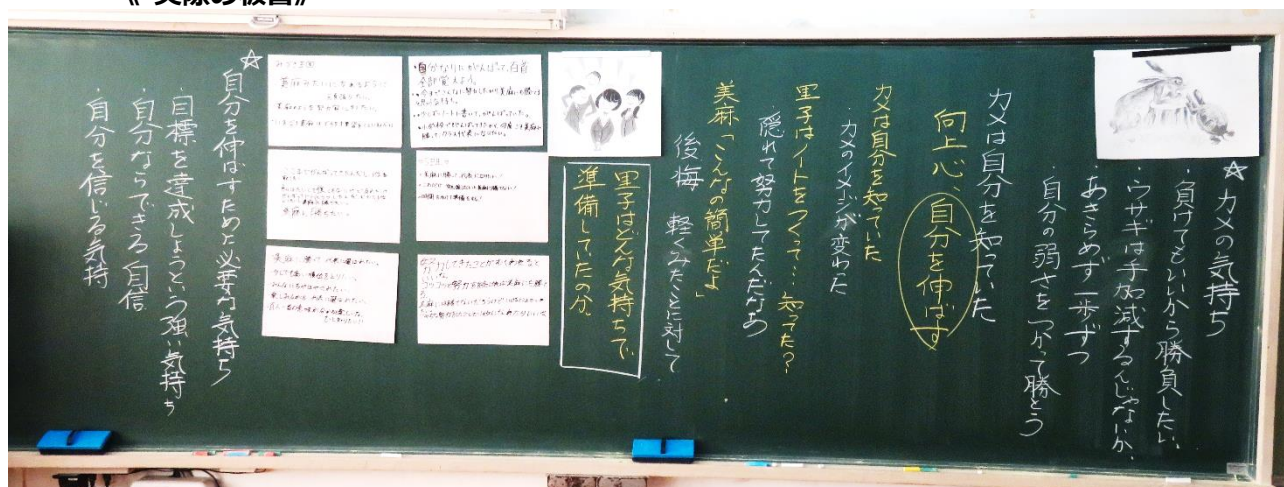
- 自分に自信をもち、その目標に向けて準備していくことが大切だと思う。積み重ね。努力すること。目標を達成しようという気持ち。何かに勝ちたい、目標を達成したいという気持ち。
- 挑戦する気持ち。がんばるという気持ち。一度負けたからといってへこまず、次勝てると思うこと。
- 前向きな気持ち。ポジティブな気持ち。
- 自分を知って努力すること。自己肯定感。自分の自分らしい面をいかすこと。
- 努力はいつか実力になると未来を信じる気持ち。今は報われなくてもいつか報われるんだから頑張ろう。
- あきらめない気持ち。自分を信じる気持ち。あきらめず最後までやりとげる、報われるまで努力するという気持ち。
- 何事にも楽しく思う。楽しみながらやること。
- 自分を信じ、自分の心を鍛えていくこと。

- ◆授業をふり返る場面

《 実際の生徒の学習カードの記述より》

- 自分に自信を持つことも大事だと思うけど、自信を持ちすぎて余裕をもって遊ばないようにしたい。努力し続けたい。
- 努力することや挑戦することが大切だと感じた。自分をもっと伸ばせるように自分のことを知りたいです。
- 相手との実力差があってもあきらめないことと自分を知ることが大事だと思った。
- 自分もカメみたいに苦手なことから逃げずに努力したい。
- 一つのことでも一生懸命に楽しくやる。
- 人のことをバカにしたり下に見たりするのはいけないことだと思った。里子のようにゆっくり楽しみながら一つのことをがんばるのもよいことだなと思った。
- 今日の授業で、やはりコツコツと積み重ねることは大切だと思った。なので、これからはテスト勉強も早くからはじめてコツコツと積み重ねるようにしたいです。
- 私もカメのように普通に考えればできないということでもあきらめず最後まで全力で目標に向かって頑張っていきたいと思った。

## 《 実際の板書 》



### Ⅲ 成果と課題

#### (1) 生徒の言葉で考える道徳の授業構想について

生徒の言葉を考えながら授業構想することで、生徒理解が深まり、生徒の意識に沿った授業ができました。道徳の授業ではやはり、生徒の言葉が命だと思います。反面、生徒の言葉だけだと机間指導の中で生徒の言葉を整理し、指名計画につなげていくことが難しかったです。事前に考えた生徒の言葉を板書計画で次のように整理しておくこと、授業の中で生徒一人ひとりの考えたことを効率よく授業展開にいかせると思いました。

例えば・・・中心発問を考える場面

#### ○美麻にあこがれる気持ち

- ・美麻みたいになれるよう頑張りたい。・美麻のような努力家になりたい。
- ・いまごろ美麻はどんな練習をしているんだろう。

#### ○美麻に勝ちたい気持ち

- ・今度こそ美麻に勝ってクラス代表になりたい。
- ・これだけ勉強しないと美麻には勝てない。

#### ○楽しむ気持ち

- ・楽しみながら代表に選ばれたい。
- ・楽しみながら代表に選ばれた

い。

- ・百人一首の意味がわかるとたのしいな。もっと知りたい。
- ・自分なりにがんばって百人一首を全部覚えよう。

#### ○謙虚な気持ち、挑戦する気持ち

- ・こんなに努力したから美麻にも勝てる。
- ・私はたいして強くないけどあれだけがんばってノートを写したんだから1位を取りたい。美麻に勝ちたい。
- ・美麻には勝てないかもしれないけどいけるところまでいこう。

#### ○その他

- ・時間をかけて準備する。
- ・みんなにちやほやされたい。
- ・努力が報われるといいな。

(2) 道徳の評価につながる学習カードのあり方について

道徳の評価は、「大きくくりなまとまりの中で生徒の学びのよさを評価する個人内評価」であるが、毎時間、一人ひとりの道徳の時間における学びのよさを評価し、積み重ねていくことは大変なことです。道徳の通知票や要録の記述では、教師の観察による大きくくりな評価と生徒の学習カードの蓄積をもとにして記述することも多いでしょう。すると、教師の観察による大きくくりな評価の部分と学習カードから評価した学びの具体の部分結びつかない記述になってしまうことがあります。例えば、次のような記述・・・

A 意見交換を通して友達の考えに共感しながら、多面的・多角的にさまざまな道徳的価値について考えを深めていました。 B『カメは自分を知っていた』の授業では、こつこつと積み重ねることの大切さを感得し、日常生活にいかしていこうとする意欲をもちました。

Aの部分は担任が日頃の授業を積み重ねた中で鳥瞰的にとらえた大きくくりな学びよさです。Bの部分は学習カードの「授業をふりかえる」の記述をもとにした学びの具体です。一見よさそうな道徳の評価の記述に見えますが、Bの記述がAの具体となっていないことがわかります。このような記述になってしまうのは、学習カードには、生徒一人ひとりが授業の場面場面で考えたこと、感じたことは残っているのですが、「どのようにしてその考えにたどりついたのか」という学びよさまでは残っていないからだと考えました。

そこで、学習カードのふり返りの最後に、「今日の私の学び方!」という項目をつくって実践しました。


学びのよさを生徒自身に自己評価させる 学習カードにすると、先ほどの記述はこうなります。

道徳 学習カード (2/7) 1年 組 番 氏 名

カメは自分を知っていた 向上心、個性の尊重

1 カメの気持ち

みんなに親身な話を聞いてあげて、  
助ける。



2 里子はどんな気持ちで準備していたのか。

百人一首の意味が分かりたい。

3 向上心とはどういうことか、自分を伸ばすためにはどんな気持ちが必要か

今はよくわかっていて、いつかよくわかるんではないか。

4 授業をふりかえる  
今日の授業を通して感じたことや考えたことをまとめよう。

今日の授業で、こつこつと積み重ねることは大切だと思えた。これからは、7人8人組を組んで、7人8人組の活動で、こつこつと積み重ねていこうと決めた。

★今日のわたしの学び方!

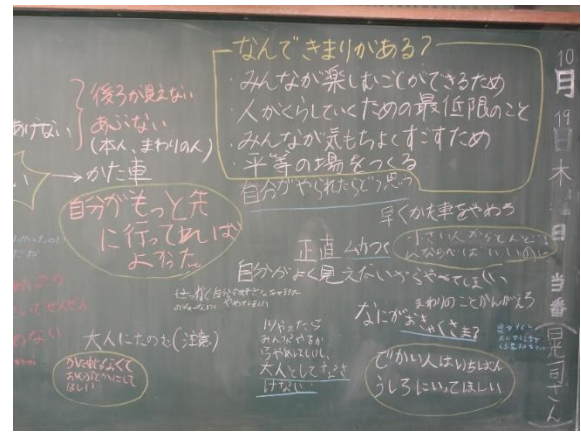
A ウサギやカメの気持ち、物語中の美麻、里子、耕司の気持ちになって考えた。  
B 友達の考えに「なるほど」と納得しながら聞いて、自分の考えにいかすことができた。  
C 自分の考えをもち、みんなの前やグループ活動で積極的に意見を言えた。  
D 友達の意見と自分の考えを比べながら聞いて、考えを深めたり、広げたりすることができた。  
E その他 こんなふうに学んだよ

A 意見交換を通して多面的・多角的にさまざまな道徳的価値について考えを深めていました。 B『カメは自分を知っていた』の授業では、グループ活動で自分の考えを積極的に述べたり、友達の意見を自分の考えと比べながら聞いたりして、こつこつと積み重ねることの大切さを改めて感じ、日常生活にいかしていこうとする意欲をもちました。

このような学習カードを蓄積していけば、道徳の評価の記述が少しは書きやすくなるのではないかと考えました。

★今日のわたしの学び方!

- A ウサギやカメの気持ち、物語中の美麻、里子、耕司の気持ちになって考えた。
- B 友達の考えに「なるほど」と納得しながら聞いて、自分の考えにいかすことができた。
- C 自分の考えをもち、みんなの前やグループ活動で積極的に意見を言えた。
- D 友達の意見と自分の考えを比べながら聞いて、考えを深めたり、広げたりすることができた。
- E その他 こんなふうに学んだよ



1 題材名 「お客さま」 内容項目 C (12) 規則の尊重 きまりの意義

2 資料名 道徳5 きみがいちばんひかるとき 光村図書

3 道徳授業の実際

4 振り返り

(1) 主眼(ねらい)

きまりを守らず自分の都合を優先する人を見たことで、気持ちが晴れない「わたし」の姿を通して、きまりは何のためにあるのかを考えさせ、互いの権利を尊重し合い、必要なきまりを進んで守ろうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 振り返り

<導入>身の回りにはどんなきまりがありますか。

・大なり小なり、自分のまわりにはきまりが存在していることを子どもたちはわかっており、きまりを守らない人がいること、自分もきまりを守れないときがあることを感じていた。

<内容把握>問題は何ですか。

・「自分の子どもが見えない」といって、肩車をしたりビデオカメラなど上にあげたりしてはいけない。

→係の人からも言われていることで、それがきまりであることは明白。

<中心発問>あなたが「わたし」だったら、どう考えると思いますか。

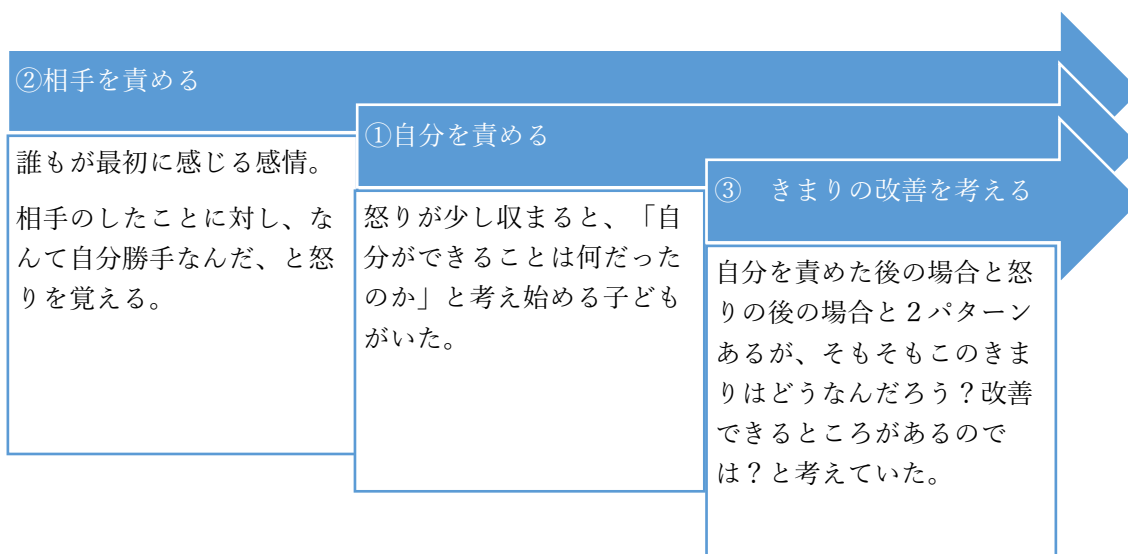
○子どもたち一人ひとりが、黒板に考えたことを書いた。→大まかに 3 つのパターンに分かれた。

①自分を責める 自分がもっと先に行っておけばよかった。

②相手を責める 早く肩車をやめてほしい。自分がされたらどう思うんだ。何がお客さま?  
きまりを守らない人がいるから楽しくない。

③きまりの改善を考える 小さい人から並んでいけばいい。

子どもたちの行動、考えとしては、



その流れから、何できまりがあるのかを考えていった。

ひとつ、子どもの発言ではとしたのが、「きまりがあることで**平等の場をつくる**ことができる」。私自身、きまり=平等の場なんて考えたことがなく、子どもに教えてもらった、気づかせてもらった、と感じた時間になった。

#### ◎授業を終えて

どのねらいの授業でも、大切だと考えているのが、「同じ問いかけをされても、ひとりひとり考えが違い、答え方も違う」ことを感じる時間にしたいということです。行きつくところは一緒かもしれませんが、自分と違う考えを持っている人たちが集まり、生活しているということは忘れてはいけないと思っています。それにより、「相手を責める」から「相手と折り合いをつける」ことができるようになればいいなと考えています。